

第9回防災講演会の報告

(公社) 日本技術士会近畿本部 (登録) 防災研究会

開催日 : 平成28年8月30日(火) 19:00~20:00
開催場所 : 日本技術士会近畿本部会議室
参加者数 : 24名
講演タイトル : 専門士業熊本地震ワンパック住民相談会に参加して
講師 : 太田英将氏 (有限会社太田ジオリサーチ)

1. はじめに

今年4月に発生した熊本地震で大きな被害を受けた地域に対して、阪神・淡路まちづくり支援機構が中心となって専門士業が一堂に会し、住民の相談を受ける「専門士業熊本地震ワンパック住民相談会」が6月10日(金)~12日(日)までの3日間開催されました。

太田氏は、技術士の代表として参加され、現地で相談会活動を行うとともに、被災状況の視察も行われました。当講演会では、国土地理院データから熊本の3D地図模型を作製、持参され、地形等背景の説明も交えてわかりやすく講演いただきました。

2. 講師略歴

1960年鳥取県生、1982年静岡大学理学部地球科学科卒業、明治コンサルタント(株)を経て、1990年に太田ジオリサーチを創業、現在に至る。専門は、地質・土質、斜面防災対策など。阪神・淡路大震災で丘陵地の盛土造成地が地すべり変動を発生したのを契機に、人工地盤(造成地)問題にかかわるようになった。2006年の宅地造成等規制法改正(大規模盛土造成地変動予測事業および宅地耐震化事業の創設)時に技術支援を行った。現在は、経験則で組み立てられた斜面問題を、強度実測と論理的方法によって再構築し、合理的・経済的な土工構造物の対策工を研究開発している。



3. 講演概要

3.1 専門士業熊本地震ワンパック住民相談会参加者

参加した専門士業は、弁護士(5名)、税理士(5名)、不動産鑑定士(7名)、土地家屋調査士(3名)、司法書士(2名)、行政書士(2名)、技術士(5名)、建築士(2名)の8業種です。日によって参加者のメンバーは変わりましたが、およそ30名が対応しました。日本技術士会からは5名の参加で、近畿本部2名、九州本部3名であり、近畿本部から太田氏他1名が参加しました。

3.2 被災地への移動と相談会への参加

熊本駅から益城町を通り、本来ならカルデラの空いているところを通る県道28号が不通のため、冬場は通れないグリーンロード(外輪山越え迂回路)を経由して10日に南阿蘇村に入り、その後11日に西原村、益城町で、12日に御船町で相談会に参加した。

3.3 住民の相談内容

被災された住民の方は、家屋や宅地の危険度判定や、ローン、税金などたくさんの悩みを抱えておられます。それぞれの分野が異なるため、何度も各専門家が開催する相談会に参加しなければならないのですが、この専門士業ワンパック相談会は、すべての悩みを一つの相談会ですべて

受け止めるという趣旨で開催されました。当初、技術士が担当するような地盤の相談などあるだろうか？と疑問を持っていましたが、相談会が始まると、ほとんど休む間もなく相談に応じるという状況でした。主な相談内容は次のとおりです。

○技術士への相談内容

- ・西原村では、倒壊率が高く宅地地盤の相談はなかった。

崖地の擁壁の倒壊と、その上方斜面のクラックの安全性の相談があった。

- ・益城町馬水の南側地区は宅地が液状化・側方流動したために2000年の新耐

震以降の家屋も著しい被害を受けていた。ベタ基礎住宅は見かけ上被害が小さいように見えたが、家の中は酷く、2次調査を勧めた。地盤に対する不安が多かった。

- ・御船町では擁壁の変状や、崖の肩部のクラックへの心配の相談があった。

技術士は地盤や土砂災害を専門とする人が参加しましたが、一緒に相談に乗る士業は、建築士と不動産鑑定士であることが多かったことから、これら士業とは日ごろから連携を深めておくことが大切と感じました。

3.4 今後へ

今回の専門士業ワンパック住民相談会では、技術士の役立つ場面が、技術士が思っている以上にたくさんあることや、他の士業と連携すると、住民にとってもとても有益なアドバイスができるということが初めて実感できました。

技術士を除く7つの士業は、業務独占資格で、個人事業主の立場の方々です。この専門士業ワンパック相談会に参加して、技術士も、他の士業の方々と同様に業務独占資格とし、企業株主等から独立した中立的な立場で社会的役割を堂々と果たせるべきだと感じました。

4. 質疑応答

○相談内容は多数あった。社会貢献になったので、今後も相談会の実績を積みあげていけばよい。

○当初自費のつもりで参加したが、交通費、宿泊費は、阪神・淡路まちづくり支援機構から支給されることとなった。

○宅地がレッドで建物グリーンは、調べる人が違い、対象も違うため。住民は、建物は補助対象なのでレッド判定を望む傾向も見られた。

○相談したい人の人数はそう多くはないので順番に対応できた。ある程度自治会でさばいてくれている。

○今回行ってもらって良かった。今後も続けていくべき。弁護士会が書類としてまとめる予定。

5. おわりに

講演会後交流会が開催され、参加者相互の交流を深めました。



(文責 藪内生死)